所でわずか九○○米たら

もつとも狭隘

業がますます発展し小都市

並に諸事業が次々と起り商

の要所となり公私の諸施設

的形態をなし県下でも有数

の商業地にかぞえられ村民

長く東西には

たが南北に細 形は大体平坦

より陸上交通(中部地区)

繩県鉄が 嘉手納線の 関通に 署、登記所等が設立され沖

つて川を隔てて読谷村に接

はもちろんのこと隣接市町

経済、教育その他の面に於

いて裨益する処が多大であ

した北側は丘陵北帯にな

周囲はほとんど軍施設に囲

しコザ市美里村に接するが 東は十六号線道路を通じ

なれ小島の観を呈し まれ隣村とは隔離され、は

てい

にとみ多数の海外移民を送

し、その面での村民の

た。さらに村民は積極性

(1)

地

に分けることが出来、南西 村の地質を大別すると二つ

を有する比謝川は全長約一

〇〇〇米に及び水量豊

とが出来ず、さつそく先遣 そのまま故郷に復帰するこ

はこの一帯は商業地域とし

をかまえ事業を営み現在で て他村よりの出稼ぎ者が住

区として村行政が運営され

区、謝苅区の三地区を行政

尚コザ市諸見里に水源地

今時大戦ですべてを失い、

動が許可されたが、当村は

使用できる土

る分密工場、県立農林学

名等の各収容所に分散収容

(一号線以

開始することになり、標準

前原、田井等、

コザ、辺土

なり村民は宜野座、石川、

青年師範、嘉手納警察

五〇トンの製造能力を有す

地)となって

村民が自由に

坪が民用地(五六、五九四

発展しさらに沖縄製糖の四

おります。

四五、四三〇

坪でその内八 回110,110

の三、七

坪が軍用地に

た十五%の六 接収、残され 面積は四、四

行 所

印刷所 セントラル印刷所 電話 099—2273

郷への移動を開始した。そ 々と各収容所より村民が故 設、共同耕作が行なわれ続

して同時に一九四七年二月

五日民政府布令第十五号

北

隊を組織し標準家 屋

の建

分 村 + 五 周

年

を

嘉手納村役所 電 話 (076) 2001番

料に資していただき今後尚一層村民各位の御協力並に御援助を切望致した 年をむかえましたのでここにその十五年の変遷を簡単に記し今後の参考資 いと思います。 吾が嘉手納村が一九四八年十二月四日北谷村より分村して今年で十五周

位置地勢及び面積 り西海岸に沿 主都那覇市よ 本村は沖縄の つて北方へ約 肥満であるが北東部は古世 部は珊瑚礁土壌や泥灰岩土 壊よりなり一般的に土地は

にあり、村の総 二四粁の地点 ている。 カリ性土壌でやせ地となっ 紀の粘板岩等よりなるアル 沿

中頭地区唯一の家畜市場が

り牛馬、豚の集散地として

富で比謝橋まで汽帆船が出

入し離島その他の市町村よ

は純農村として生計を維 商業その他諸事業を営むも より寄留者がふえてここに から首里、那覇その他の地 され字嘉手納一部を除いて のが逐年増え商業地として していて平和な村であ こ。又字嘉手納は磨落前 北谷村に包含 あり村内外の畜産熱もたい く那朝あたりからの観光客 米軍の制圧下に終戦状態に 戦に於ける最大の戦災地と 月一日米軍上陸により沖縄 も多くとてもにぎやかな村 八景の一つにかぞえられ遠 謝川河畔は景色が良く沖縄 であつたが、一九四五年四 したものであつた。また比 つた。そして同年六月村は して行政機能のすべてを失

いて同年十一月十日嘉手納 北谷村への移住が許可、 が二代目村長に任命され 在のコザ市) 嘉間良に役所 村長に任命され越来村(現 北谷村長新垣実氏が軍政府 されていた。 て同年六月新垣村長が辞任 の運動が行なわれた。そし 代表者が集り故郷復帰促進 が設置され、各収容地より の布合に依り戦後初代北谷 (現在の嘉手納村) への移 同年七月十日稲嶺盛昌氏 一九四六年四月終戦前の 一九四六年十月二二 域が許可(立入使用)にな り、ここに次々と村民そし か良くなつてきた。同年十 生活は軍作業と農収によつ 村民経済は今迄よりいくら 済であつたが明けて一九四 東)字屋良の一部に村民 村は字嘉手 納 の一部の軍使用地内(約十 て維持されて、くるしい経 もつてまかなわれ又村民 ようになつた。当時嘉手納 一月十六日一号線以西の地 九年四月二二日兼久、水金 住し村予算は売店利潤で の農耕が許可され

玉の三ヵ所に初等学校が設 失つた村民は愛郷心にもえ るようになつたが、総てを 置され、教育行政が行われ をもつて北谷、嘉手納、 に精進したのである。 日夜我が村、我が家の再建

で村民(嘉手納)は役所へ たので時の村長稲嶺盛昌氏 不便を感じ又村行政運営に は遮断された形になつたの も支障をきたすようになつ の用務を果すのにそうとう 場への立入が禁止され道路 八年五月頃より嘉手納飛行 区と称していたが、一九四 に設置され、本村は嘉手納 され村役所は北谷村桃原区 年十一月まで北谷村に包含 吾が嘉手納村は一九四八 るに当りまして、村の有志 所感の一端を申し逃べたい が、分村以来今日に至るま 意義ある記念式典を挙行す 年を数え、本日ここにその り分村してから早や十五周 と思います。 ましたその足跡を偲びつつ たかいながら本嘉手納村の で並々ならぬ困苦障害とた 先輩各位及び村民の皆様方 建設に日夜努力して来られ 私達嘉手納村が北谷村

数八二二戸人口三、八七九 が議会の承認を得て民政府 に陳情し一九四八年十二月 番地 (現在の三区) に設置 を嘉手納村字嘉手納一〇二 川可誓氏が選出され、役所 奥間敏雄氏初代議長に喜世 四日付をもつて嘉手納は戸 選挙が行なわれ初代村長に 人をようして嘉手納村とし し村行政事務が行なわれる 一九四八年十二月十九日 先遣隊が組織されて活動を 民の受け入れ準備のために 移動が許可され、直ちに村 を期待している時遂に一九 四六年十一月十日、村への は村に帰れる日のあること 達村民は北部、中部の各地 陸による難を避けるべく私 おきまして、米軍の沖縄上 それに甘んじつつもいつか リの状態ではありましたが に散在していたのでありま 生きるための最低線ギリギ 顧みますれば去る大戦に 避難地における生活は

分村はじめての村長、

て分村が認可された。

九四七年二月下旬、いよい 開墾、明治由からの資材の みが始められたわけであり 動復帰し早速村づくりの営 を先便に次々と各地から移 建設作業の結果、明けて一 切り出し、或は米軍の廃材 家屋の建築、共同農耕地の よ村民待望の移動が始ま の蒐集等と、日夜懸命なる 当時北谷村は、村役所を 先ずは北部地区の村民 わけであります。 えられてここに新嘉手納 にする中で選挙が行われ、 が告示され、同月十九日全 ます。そこで早速村長選挙 認下がなされるわけであ としてのスターが切られた が選出され、役所陣容が 初代村長として奥間敏雄氏 民が新村建設の決意を

ていたわけでありますが嘉 桃原に置き、嘉手区、桃原 手納出身の役所職員は治安 女の一部が軍作業に就いて 名、戸数にして約八〇〇 ました。一般村民は若い男 であり、村財政は売店の売 いる外は農耕に従事したり 上利潤によって賄われてい 時の人口は約三、 数建築するようになって所 手納村が、軍労務に就労す 得が急増し、他面、吾が嘉 設がなされました。更に て、明るく住み良い基礎施 ち、又米軍への貸住宅を多

ž

思います。

後の限りない繁栄を全村民

終りに吾が嘉手納村の今

と共に祈念すると同時に村

す。 民各位

しまして御挨拶にかえま各位の健康と発展を念願

ょ に旦つて不便をかこつてい めたものであります。 所行き等大へんな困難を極 は一般村民の所用の為の役 り、村行事や集会、あるい なければいけない時代であ ました。また当時は婦女子 ならないような状態であり は徒歩で行き来しなけれ まで時には拾い車で、時に 地域の中を通つて遠く桃原 の外出や遠出は余程注意し このようにして諸事万般

られたのであります。 る時、一九四八年五月頃飛 運営の上から、嘉手納地域 止になり道路は遮断された 行場地域への立ち入りが禁 実上不可能な状態に追いや 形となって村行政の円滑な と村役所との連絡往来が事 ります。

ことであります。この事に 論は勿論のこと、村当局や ついては、嘉手納住民の与 成しなければいけなかつた して、新しく嘉手納村を形 意ながらも北谷村から分村 置は只一つ、経済的に不如 議会も分村にふみきるべき 村長稲嶺盛章氏が議会の承 認可決を得て民政府に陳情 に検討を加え、当時の北谷 であることを可として慎重 付をもつて嘉手納村の分村 し、一九四八年十二月四日 ここに於いてとるべき措 当局や、 東、十六号線以北の狭い地 的な村づくり態勢へと発展 可になって急ビッチで移動 には一号線の西側が移住許 よつて、一九四九年十一月 域に限られていたのが、村 での住民地区が一号線以 していきました、一方今ま れ、いよいよ総合的、有機 また各種団体も組織づくら の人を得て整備拡充され、 ましたが、それと併行し 次第に軌道にのつてまいり 事が整えられて村政運営が さて、村の行政機構や人 他の関係機関も各々そ

衛生施設の整備や観光道路 相まつて道路、排水施設、 た活発な議会活動と、周到 たのであります。爾来、 が始まり、村の将来の発展 の復興建設に意欲十分なる の為に大きな曙光を見出し 綿密なる村当局の計画とか 村民各位の与論を反映させ 開通等村民の生活にとい 議会の働きかけに ます。 形で前途に現われたとして 合、前途に幾多の困難な課 題が予想されることであり は、唯今の吾が村の現状を を固めなければいけないと し合い、郷土建設のため尚 全村民が連帯責任の立場に は、民主々義の理念のもと ばなりません。そのために も、それを打解していかね 思いを村の将来に至した場 つぶさに検討し、日々変転 しつつある世界状勢の中で 一層の努力を払うべく決意 おいて各々のもてる力を出 如何なる問題が如何なる

も安定しない当時、飛行場 迎えて ば 般の学校建設に傾注した努 職員、児童生徒及び父兄一 りつつある時代であり、暫 力はなみならぬものがあつ え、そうなるまでの学校の 次落付きつつあつたとはい 第に軍払い下げのコンセツ ましててはテント教室が次 トや、かやぶき校舎に変わ 一方学校建設の面におき

用の消耗品や児童生徒の学 手段を講じて間に合わし も教具備品の殆んどが職員 の内容面を考えました場合 あの当時の御苦労の程は今 り、支給されたりするルー 用品等は、正式に購入した や生徒の自作であり、教授 も尚記憶に新なるものがあ し、あらゆる可能な限りの の中で学校当局が東奔西走 トもなく、全くの無の状態 ます。 大きな原動力となつている

式典の意義ある機会に際 と思います。 おきまして特に御貢献下さ 復興の面、 産業の面、教育の面、 まして、今まで村政の面、 て、その労をねぎらいたい 謝状、表彰状をお 贈 り いました方々に対し後程感 でございます。 本日の分村十五周年記念 最後に申し上げますこと 社会治安の面に

それぞれの持場で奮闘努力 されたおかげで今のような 団体、そして村民各位が、 当局、議会を中心に各機関 村以来今日に至るまで、 嘉手納村の繁栄を見た次第 以上、述べました通り分 村

していました。 或は家屋建築に従事したり

たのであります。また学校 各種商業や企業が盛んにな 然の如く、北部、中部、南条件を備えているため、当 村のあらゆる面においてす 住するのが多く年々人口の部の各地や離島の方々の移 が、建設途上にある嘉手納 半数に及ぶ他市町村の方々 て参つたのであります。 くり現在の姿にまで発展し り次第に都市的形態を形づ 増加を見、これに関連して れにしても村人口のやがて ばらしい活躍をして来られ たことは、村の発展の為に そ

ことを確信するものであり

主技主経建総収助村 使 給 技 平新真伊新我徳金伊嘉山大伊沢伊小金伊兼高仲平知玉知多島池古池島宮宮津新島伊 田垣栄波垣謝里丸波手口城波岻波渡 波村嶺宗良念城念和袋原被原袋城城波垣袋礼 安マ玄文君正政等昭繁三千康安惟一政憲政朝良政佐紀鶴八初喜正芳定次行正盛春 雄ド信子子秀勝江夫正郎枝之喜真成明盛信助信盛喜子子子ル子信夫子栄郎徳雄光昌

会議員選挙 当選)

(稲嶺盛昌氏

郎氏外七名当選)

一九五三年三月二九日市

治法の一部改正に

九五〇年十一月群島議 校が小学校に併置され 小学校に統合され明治四〇

国尋常小学校が北谷尋常

立大正三年には北谷小学校 年には屋良尋常小学校が設

面よりの続き

☆一九四八年十二月四日北

主なる村行政記録

谷村より分村

サー元師が就任

里、島尻、伊江島等にあつ

戦後は軍布合により各地

五人の委員をもつて構成し 村住民により直接選挙され

註」区教育委員会は市町

村に移管された。 れ教育行政の一部が市町 (27

に お け

育

政

の

あ

ゆ 3

五六二名職員四四名)

等に教育を受けられるよう の義務教育制度が布かれ平 の男子と間切の吏員養成の になったが、当時学校は首 九年)頃の学校教育は上族 たが廃藩により四民平等 めしか行なわれていなか 明治十二年(西胚一九七 むかえ終戦となった。 日本軍政下で学制改革が行 なった。 なわれ尋常小学校が国民学 校に改称され第二次大戦を の均等が行なわれるように が設立され吾が村にも教育 尚昭和十六年四月一

難が伴なつた。そこで北谷 及を計るに相当の年月の至 教習所を設けたが住民はこ の恩典によくすることがす たためやはり田舎の者はこ れに関心を示さずこれが普 は子弟教育を行うべく なかつたので各間切(村) 学校教育が行なわれるよう 校四年)の設立が認められ 区に学校(初等学校八年高 合を公布し、初等学校を 八年制の義務教育にし 一九四六年には初等学校 化、教育行政の地方分権、 市町村の総ての教育行政事 いう目的のもとにつくられ 教育行政の自主性の確立と 務を司どり教育行政の民主 ている合議体の機関であ 一九五七年三月二日布令

政府内に中央教育委員会 高校三年)と男女共学制 令により六·三·三制 が行なわれるようになつ (小学校六年中学校三年 九四九年十二月沖繩民 なつた。 民主団体の憤激をうけこ 等が実施され教員並に各 れを廃止せざるを得なく

されそして明治三四年には 国に野国尋常小学校が設立 村に学校らしい学校が出来

九四八年三月には軍布

集会の制約その他契約制

六五号をもつて教員の

たのは明治一九年に北谷尋

小学校明治二五年には野

が設置され全島十地区に 島米国軍政府が廃止され

琉球列島米国民政府が設 より村議会議員補充選挙 た。以上のように戦後の 施行(比嘉憲義氏外七名 (教育四立法)を制定し 六五号を廃止し民立法 九五八年四月一日布令

立、民政長官にマツカー 地所有権が確認さる。 所有権証明が交付され土 九五二年三月綜合グラ 九五一年四月一日土地 する 当選) 村五周年祝賀式挙行 奄美大島群島日本に復帰 一九五三年十二月二五日 一九五三年十二月四日分 ☆一九五八年二月二六日村 改める。 主催生年合同祝賀会を催

完成なる 助氏外三名当選) 国総管本殿並に第一鳥居 琉一般対高校陸上競技大 一九五四年十二月五日全 九五五年三月三十日野 ☆一九五八年九月二十日B 氏当選)
(知花英夫 庁舎落成す。 軍票をドルに切替す。 催生年合同祝賀会を催す 一九五九年二 九五九年二月二八日分 九五九年二月十日

註」一九四七年二月十五

民政府布合第十五号で嘉

納小学校設立

☆一九五三年一月四日二代

式典

納区教育委員及ご会計係

九五五年十

月二五日

村十周年記念並に新庁舎

☆一九六〇年五月二八日消

防庁舎落成祝賀会

管総例祭を挙行

会

九六二年九月村政懇談

風十八号ナンシー来襲

九六一年十月一日野国

☆一九六二年九月二三日野

不 那 不 不 一 九 六 三 年 七 月 十 五 日 弁

社

会

教

伊

礼

武

制を廃し自治会長制に改 制を廃し自治会長制に改

☆一九六二年九月六日村主

供愛護会結成さる

会

九六三年六月村政懇談

一九五二年五月四日嘉手

の選挙施行

目村長選挙施行(喜友名

制に教育制度が変り中 九四八年四月、六、三

☆一九五三年一月十一日村

朝順氏当選)

議会議員選挙(儀保浜太

地に移転

九四九年六月三十日嘉 納中学校設置さる

に入る

を嘉手納村字屋良五〇番

九四九年四月一日役所

三一九五二年四月二八日講

を廃止)

和条約が発行し同三条に

よつて沖縄は米国の統治

役所を嘉手納村字嘉手納

ウンド建設始まる。

一九五二年四月一日琉球

別議会議員選挙(徳里政

一九五四年十一月三日特

襲

風十八号シャイロツト来

☆一九六一年一月十五日村

☆一九六二年三月四日四、 ☆一九六二年一月六日消防

☆一九六三年一月十 終る 終る

11

花

城

清 市

務局

奥

島

憲

"

1

Œ 清

信

主催生年祝賀会

五区子供のあそび場落成

土就職希望者合宿訓練一九六二年三月十四日本

二回産業共進会

出初式

英夫氏 当選)

雄氏外十九名当選) 議会議員総選挙(上間久 立法院議員総選挙(知花

九六〇年十一月十三日

視察のため来村

☆一九六二年一月四日村主

表大会

催生年合同祝賀会

国民政府主席民政官民情

二番地に設置行政事務

長奥間敏雄、

議員喜世川

村長並に議会議員選挙

九四八年十二月十九日

☆一九五六年十二月村民会 会議員選挙(屋我平順氏 選挙施行(喜友名朝誓氏 館建築はじまる 甘蕗伝来三五〇周年記念 一九五七年十月十日村議 一九五七年一月三日村長 業共進会 委員選挙 置条例を改正し観光課を 転す。転すの一番地に移 落成祝賀会 一九五九年七月一日課設 一九五九年三月一日役所 一九五九年三月八日教育

琉大学が設立さる(生徒 れ地区に教育行政の一部 が移管された。 九五〇年五月二二日琉 を得てやや安定してき

一九五四年五月二二日嘉

宮前小学校

くたの至難

敷地に移転。

(一九元六年度は議

するもの

に区教育委員会が設置さ 育法が公布され各市町村 合六六号をもつて琉球教 九五二年二月二八日布 30 て嘉手納初等学校認可さ 政府指令第十五号をもつ 一九四七年四月二二日嘉 一九四七年二月十五日民 小学校の沿革

一九四八年四月一日学制 生徒数三五七人 現敷地)移転職員十三人 一九四七年七月字屋良(員七名生徒数一四三名) 手納アシビナーに於て開 校)を併置する生徒一八 より中学校 (屋良中学 改革(六・三・三制)に 校(校長喜友名朝誓外職 〇人職員四人 (イ)創立、

△一九四八年四月一日屋良 △一九四八年十二月校名を 30 中学校として嘉手納小学 嘉手納中学校に 改 称 す 校へ併置さる。 中学校の沿革 納

一九四九年六月三〇日独 九五三年十二 立思可さる。

☆一九五七年七月一 招魂の塔建立さる。 を廃止、区制に行政区を 九五七年十二月二二日 九名当選) 日字制 ☆一九五九年九月十日村主 ☆一九五九年十月十六日台 ☆一九五九年九月十六日台 風十四号サラ嬢来襲 催米寿合同祝賀会 増設する。

一九五八年三月十六日立 業共進会 举行 府立公園審議会委員来村 一九六〇年二月十七日政 庁舎建築工事着工 一九六〇年四月十六日産 催生年合同祝賀会 野国総管例祭並に慰霊祭 一九六〇年二月六日村主 九六〇年一月三日 九五九年十一月一五日 ☆一九六一年九月十五日台

業共進会

釜解放地問題で弁護士へ

九六一年五月十三日水

レンメンガー氏来村

主催生年合同祝賀会

九六一年四月十九日産

☆一九六二年七月一日観光

殺場新築

· 祝賀会 一 年 六 月 二 六 日 屠

霊祭

渡 伊 勝

敷

佐.

代

佐 連

英朝

子忠蒲

東蔓延する

九六二年四月二五日第

協設置準備会

課を廃し建設課へ統合す

選挙 (伊礼春昌氏当選)

九六一年一月八日村長

九六一年一月二十日

☆一九六○年九月十八日野 主催米寿合同祝賀会を催 風ポリー来襲 一九六〇年九月二八日村 国総管例祭挙行 一九六〇年七月二五日台 日米 霊祭を挙行 成新生活運動実施協議会結 生活改善普及事業実績発 二三号テイルダ来襲 一九六一年十月二日台風 九六一年十一月二八日 九六一年十二月十七日 年十一月七日慰

☆一九六二年十二月二十日

米軍機墜落す

一月六日消防

嘉手納村字屋良チ貫田に

寿の九六二

年十月二三日

白

軍

用

地

È.

協

会

里

月二五日

さる

夫氏当選) 送挙 (知花英

一九六二年十一月十一日

☆一九六三年九月定例議会

に於いて村営で水道事業

を行うことについて議決

料法律相談開設

手 納 中 学



手 納 小 学 嘉

"

古

謝

端

郎

"

屋

Ψ. 孫

順 郎

"

覇

太

2 間なる者 身体健全。

口基金総額 校生を除く) 万ドル

出年間貸付予定額一、二〇 〇ドル以内 青 年 会

上必要な業務や行なつて 学資を貸与しその他育英 目的、優秀なる学生生 り修学困難な者に対して にして経済的な理由によ

1 有要な人材を養成するこ 貸与資格 とを目的とする。 本村に住民登録を有し

手納小学校の分校として 設置 (在籍四〇二人職員 (在籍一、一〇五人職員 一九五九年四月一日独立 一九五七年七月十

納村中校へ併置

一九五六年四月一日嘉手

七人学級七)

引き続き二ケ年以上居住

一五人

嘉手納村育英会

運営する)

会の貸費選考委員会にて

を受けてない者 私質大学生及び高校生 他より育英資金の貸与

(短期大学生及び定時高 (村よ

総務委

村奥当伊渡

山間山佐口

盛

盛哲英彦

信行男行信弘

委政

員委 長員

徳 花

里 城

政 康

助俊

婦

且つ志操堅 八会長仲宗根清幸 (初代会長宮城消二) (1)設立年月日 青年会に改称する。 九四八年 会

議会議

1:

波間

直久

潤雄

政委員

伊

総務委員長

渡

 \equiv

副委員長

神

義

四一九豆九年村婦人会を校 (1) 設立年月日一九四八年 八嘉手納村校区婦人会長伊 長村山敏子 波文子、宮前校区婦人会 区婦人会に改称する。 一九六〇年青年会を連合

議大会議大会に対する抗関機墜落事故に対する抗 九六三年六月二二日慰 十二日村 十二日農 八日第十 トヨ日新 1 副委員長 選 長 長 財政委員 教育委員会事

委

員

Ш

栄

樽

渡 大

口城

真 真

吉 栄

知

念

佐:

宫

城

郎 徳

訪 問

喜 師 反 名

Æ.

育 主 事 謹

会 岻

選挙管理

委員

沢

安

実

33

と殺場に於ける 屠 殺 牛馬 脈 小計

43 410

項目

ijί

戸 数

年度別家畜屠殺調

19574: 5 4 2,772 2,781

1959年 6 4 4,336 4,346 —

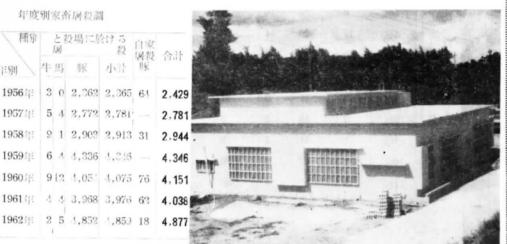
61

手

村

B	7.00	八手出来	かふえて	っていた	り一時は	れたため	は農耕地	んに行な	
1,90		小るよう	人化学個	いが最近	は養畜者	8簽畜飼	地が軍用	なわれて	
1	2	になり	料等も	では農	が少な	料不足	地に接	いたが	
		瓷	安	耕	8	K	収	戦	

嘉



1963年6月新築落成になつた村営の屠殺場

△年次別人口並に世帯数調

種別年次別	男	女	āŀ	世帯数	租 別年次別	男	女	8†	世帯数
1948	1,840	2,039	3,879	822	1956	4,871	5,273	10,144	1,956
1949	2,852	3,211	6,063	1,072	1957	4,969	5,364	10,333	1,974
1950	3,064	3,376	6,440	1,334	1958	5,418	5,984	11,402	2,250
1951	3,333	3,761	7,097	1,471	1959	5,781	6,338	12,124	2,412
1952	3,849	4,281	8,133	1,698	1960	6,138	6,688	12,826	2,572
1953	4,150	4,595	8,745	1,804	1961	6,453	7,003	13,456	2,667
1954	4,375	6,785	9,160	1,858	1962	6,532	7,037	13,569	2,568
1955	4,609	5,023	9,632	1,909	1963	6,716	7,199	13,914	2,782



第一次産業のピンチヒツターとして盛んに植付られ 当村の作付面積は3,778アール

を除いては甘藷、甘蔗を主戦前本村は嘉手納の一部 さいその他の農作物 ようになり専業農家もふえ となり基地依存に依る小規 の大部分が住宅地、商店街 模の商工業が発展し農業の 施設内の農耕が認められる みで生計を立てている者は 地に村民は住んでおり、そ のこされたごくわずかの土 五%を軍用地に接収され、 今時大戦で村の総面積の八 こくわずかでほとんど兼業 五·五四九坪(認可地七 からも盛んに農耕地造成 ・一五一坪)と伸長しこ では村の農耕地面積は二 • 三九八坪軍用地內一六 して農業をいとなんでい かし最近になつて軍

用途別	田	畑	計	荒蔗地
許可地	3,118坪	75,586坪	78,704FF	1100
軍用地内	15,665 /	149,321 /	161,986 /	50,000坪
31	18.783 /	221.907 //	24.069 /	5,000 //

		経営規模	別農家戸数	及び人口調		
種別	規模	1 反未満	1~5	5~10	10~15	#
戸	数	305	285	14	4	608
人	П	1,642	1,785	126	33	3,586

1962年3月31日調

△すら政し々のを周村本

会計年度	子算総	額	才入決算	額	才出決算	額
1948年度	22,786	36	14,326	49	13,828	07
1950 🔆 🚉	4,054	43	4.041	17	4,017	69
1951年度	6,320	40	6,146	26	6,146	26
1952年度	14,268	87	12,579	71	12.579	71
1953年度	17,095	16	16,070	69	15,960	40
1954年度	22,896	92	22,132	15	22,082	44
1955年度	27,730	56	25,981	49	25,960	20
1956年度	37,009	02	34,553	00	34,552	54
1957年度	44,966	48	46,908	28	42,233	26
1958年度	70,136	18	71,612	65	66,549	11
1959年度	86,394		87,161	81	83,481	32
1960年度	142,039	-	153,903	71	131,360	05
1961年度	118,108	-	150,484	79	102,948	
1962年度	144,562		158,155	30	136,232	4

/#16 II.	120 11	1.7 1448			000 10)	30211	-	れ切尚たをた記年か本
作付面積	穀物類 一期作 18,783坪		芋 類 174,471坪		果 樹 300坪	蔬さい類 14,555坪	一迄に村政功労者とし	六一人を 六一人を 分村十 分村十 おは一九四八年に ら分村してこれまでは 念してこれまでは 念してこれまでは のにつくされたな 表彰することにな 。 表彰することにな 。
村山盛信 喜友名側順行商工会関係功労者 (7)商工会関係功労者	(6) 農業関係功労者	55分村当時の功 新垣安義、新	重 城宏正、津波古行徳 は 付 村職員の部 協袋盛光、島袋春子、多調 (4) 村職員の部	t	歴代村長の部 暦大名朝誓	表清祥能由	して(6)その他協力者としての感徳里政助 古謝宏松	向年記念子 (1)歴代村長の 奥間敏雄 奥間敏雄 (2)歴代助役の 宮城清郎 宮城清郎 仲村守亀 (5)その他行政
軍曹 宇・マールズWデシシナー	手納空軍基地設 曹長	(5)嘉手納空軍基地設営隊道 工大尉	(4)嘉手納空軍基地第四一八 三弾薬保全中隊爆発物処 理隊長	(3) 嘉手納空軍基地報道部長 M・ダーガラビイデイマ ン大尉	嘉手納空軍地設営隊長ョンR・ローチ大佐	(1)嘉手納空軍基地司令管ジ △軍関係の感謝状 - 本地静子 - 盛 - 幸地静子	康三 奥	(イラウンド独) (イラウンド独) (イラウンド独) (イラウンド独) (京都) (京都) (京都) (京都) (京都) (京都) (京都) (京都

1962年3月31日

村 15 周 年化野国総管祭

農作物作付調

九区 七区 六区 1. 八 三区 Ŧi. 生: 福 公 X X X X X 改 改 X 祉 自 自 喜 治 自 自 由 治 古 治 自 自 自 自 自 伊治 上治 津治 花治大治森治 桑治 友 会 運 会 江長 波会 会 会 会 嘉嘉 員 城長城長 長 村長謝長 山 朝 駐 名 天 唯 古 幸幸清 盛山 在 先 行 子 真 雄 郎 栄 栄 健 郎 栄 現 徳 保 子子子

(4)

事業が実施されるようにな

り現在まで六年七ヶ月余道

政府の補助を得て一九五七

対策法が公布され本村でも

法二四号により緊急失業

ます。

本土就職年度別調

男 女 計

21

現在本村では六十名余の

地の整備等を行なつており路並に排水路の整備、観光

年三月二八日より失業対策

されており就労者は一日十 失業対策事業適格者が登録

性別 年度別

1957年

1959 / 1960 # 1961 # 1962 /

計

二名で二日交代で毎日

策事業は失業者の発生状況 らしめることを基本目的と して一九五六年七月二四日 り労働力の再生産を可能な とによって生活の安定を計 の失業者を雇傭吸収するこ 応じて実施され、これら

その生活安定を図る失業対 失業者の雇傭吸収を図

対

与条例は高合者に対し敬老本村に於ける敬老年金贈 一敬老年金問度 一一六名となつて おり まれるもので今年の該当者は ましたこれは本村に二ケ年 表しあわせてその福祉増進 以上引続き居住し八十才以 を図ることを目的とし一九 ドルを二回に分けて贈与さ 年金を贈与して敬老の意を 八三年七月一日制定になり の高合者に対して年間四

納

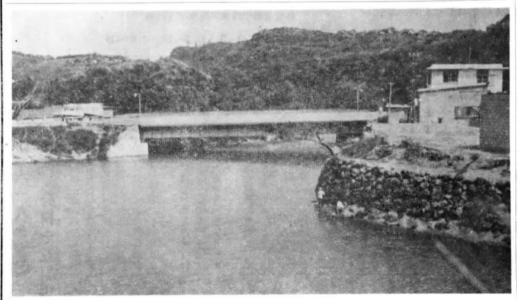
村

手

嘉

道路補修にいそしむ失対事業の人達

田 年 度 別 伝 染 病 年度別 1952 1953 1954 1955 1956 1957 1958 1959 1960 1961 3 30 3 2 5 2 3 3 2 5 44 9 1 5 4 10 痢 9 1 3 28 3 1 2 6 ジフテリア 15 12 食中毒



「恨む比謝橋や 情ねん人ぬ 吾身わたさともて

かきてうちやら」 で名高い比謝橋の全景



世界平和を祈念して建立された招 七二〇余柱の英霊のめいふくを祈





△社会及び労働

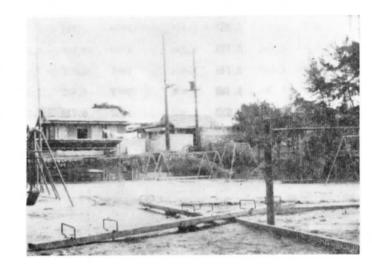
種別	被保	護者	1	生 活		165	世	帯
1			A	型	В	型	C	型
区别	世帯数	人員	世帯数	人員	世帯数	人員	世帯数	人員
1区	13	40	28	161	1	7	10	35
2区	13	57	11	57	2	8	4	16
3⊠	8	28	16	77			1	2
4区	14	39	14	69	1	2	5	24
5区	8	23	4	20			3	15
6区	20	71	20	111			5	20
7	2	11	3	21				
8区	3	14	3	8			1	2
9区	1	11	1	9			3	19
10区	2	7	8	36				
11区	9	33	8	46			2	(
31	93	334	116	615	4	17	34	139

「註」 A型とは、日常生活の内容が生活保護法により保護されている被保 護世帯の生活内容と同一線上にあるもの。

B 型とは、日常生活が一応低生活水準の内容をみたし多少の余裕が あるもの。

C 型とは、(1) 現在の生活は前記A・B型と同様であるが其の原因 が一時的であつて近く安全に自活できることが予則 されるもの。

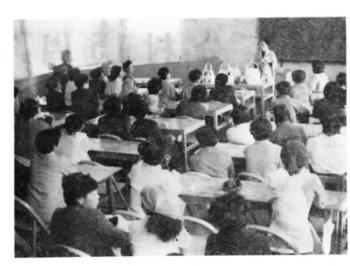
(2) 現在の生活言前項と同様であるが収入がきわめて不 安定の状態にあるもの。



子供のあそび場 落成した 四・五区の



子供のあそび場 当村に初めて出来た九区



物講習につめかけた婦人会 を村の職業補導の一環として行なわれた編